

愛ランドまつやま

発行：松山離島振興協会 / 文責：会長 田中政利

【お問い合わせ先】

事務局長 俊成雅直 Tel：997-2189 メール：airando-matsuyama@rhythm.ocn.ne.jp



まつやまブランドに選ばれた『ぼっちゃん島あわび』を即売

『第2回 まつやま 農林水産まつり』 島をまるごと 味わっちゃお



平成二十年二月二十三・二十四日の両日、『第2回 まつやま農林水産まつり』が、大可賀2丁目のアイテムえひめで開催されました。このイベントは、松山産の農林水産物が大集結するという事で多くの市民が訪れ、新鮮な野菜や果物のほか魚介や水産加工品、花きなどを市価よりも割安の値段で買求めています。昨年、内容や開催場所を一新して開催が始まった『まつやま農林水産まつり』は、初回には3万2千人の来場者を数え大成功を収めました。第2回となる今回、昨年を上回る3万3千7百超人が来場するなど松山の新たな風物詩として定着しています。

松山離島振興協会では、田中会長がまつりを主催する「まつやま農林水産まつり実行委員会」の副会長を務めていることから、当該まつりを全面的にバックアップしようと、多くの島からの出展で島の特産品PRに努めました。特に、昨年七月に「まつやまブランド」に選ばれたばかりの『ぼっちゃん島あわび』への来場者からの反響は大きく、しかも格安での販売とあって、わずかな時間での完売となりました。出品物を見渡すと、水産物は柑橘類に比べ競合する商品が少なかったこともあり、どの商品も飛ぶような売れ行きで、早々に店じまいとなったものです。また、模擬せりや〇×クイズは、昨年同様、大にぎわいで、子どもからお年寄りまでが楽しい時間を過ごしていました。協会では、今後も、農林水産まつりのほか各種イベントに参加し、島の特産品販売による島嶼部経済の発展に寄与していきたいと考えています。

『まつやまブランド』を売り出そう!

松山産だから愛がある

松山市が、平成18年度から、農林水産物自体の価値を高め、販路拡大に本格的に乗り出す取り組みとして検討を進めてきた『まつやま農林水産物ブランド認定事業』。まつやま農林水産物ブランド化推進協議会での協議を経て、現在、柑橘3種、水産物2種の計5品目が『まつやまブランド』として認定され、松山の名を全国に発信しています。日本経済の停滞があらゆる方面で叫ばれている中、松山市では、低迷する農漁家生計の立て直しを【攻めの農林水産振興策】で図る取り組みが始まっています。

温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれ、農林水産物やそれらを原料とした加工品が数多く生産される松山市。こうした全国に誇れる松山産の農林水産物を情報発信し、「松山らしさ」「松山ならではの価値」を伝えるなど、知名度や信頼性を高めて、ブランド化を推進することを目的として結成されたのが『まつやま農林水産物ブランド化推進協議会』です。松山市では、農漁家の所得が下降線の一途をたどる現状を憂い、新たな農林水産振興策として、『まつやま農林水産物ブランド認定事業』に取り組みしました。『まつやまブランド』



農林水産まつりで『まつやまブランド』をお披露目

として全国で勝負できる産品を作り上げ、同時に販路の拡大および開拓を行い、松山の元気な農林水産業を取り戻そうという試みなのです。その中で、平成十八年十二月に、「紅マドンナ」「せとか」「活媛アナゴ」が、平成十九年七月には「ぼっちゃん島あわび」「カラマンダリン」がそれぞれブランド品目に認定され、現在、全市を挙げた販売促進活動が展開されているところですよ。

この5品目は、すべてが島の産品でもありますので、『まつやまブランド』は、まさに離島振興のための切り札と言っても過言ではなく、これからの島の未来を切り拓く救世主ともなるのではないかと大いに期待を高

まっています。協会では、これら5品目のほかにも、安居島の生ひじきや釣島のモイカの一夜干し・うにの瓶詰めなど、新たに『まつやまブランド』に成り得る産品の発掘に全力を注いでいきます。



安居島ブランドの生ひじき

		
紅マドンナ	せとか	活媛アナゴ
		
ぼっちゃん島あわび	カラマンダリン	
【まつやまブランド】		

ご存知ですよね?! 『活媛アナゴ』

中山社長は、今治市の出身。現在は、本社を古三津一丁目に置き、中島は小浜の海岸沿いに養殖場を構えています。「自分の好きなことなら、いい仕事ができる」「これからも夢を追求していきたい」と語る中山社長の瞳は、青年のようなきらきらした輝きをたたえています。『活媛アナゴ』

今回から毎号連載で、島おこしキーパーソンとなる人物を紹介するコーナー。記念すべきシリーズ第一回を飾るのはこの人。中島地区で養殖アナゴを手がける中山仁助さん、五十七歳。株式会社【活媛】の代表取締役社長として天然物にも勝る『活媛アナゴ』を開発し、『まつやまブランド』の中核品目にまで育て上げた、島の特産品開発のキーパーソンといえる人なのです。



【株式会社 活媛】
2004年に中山社長が設立。社長の座右の銘は加納治五郎の言「勤 是を楽しむ」。昔は柔道や雉撃ち猟に明け暮れた社長。現在は、お二人のお孫さんと遊ぶのが何よりの楽しみとか…。



「あなごめし」や「白焼き」でどうぞ

の命名には、中山社長の「愛媛を養殖アナゴの一大産地にしたい」との熱い思いが込められています。協会では、中山社長の夢の申し子である『活媛アナゴ』が、全国で大ブレイクする日を期待し、これからも応援を続けます。

『シンボル・マークのデザインがついに完成!』

中島の出身で、現在、東京で活躍中のデザイナー溝田明さん。このたびの統合中島小学校の校章などのデザインを担当されています。溝田さんは、私たち協会の顧問である金本房夫先生の教え子で、そのご縁から、故郷の後輩たちのためにと、今回の仕事を担当されていらっしゃる。そんな溝田さんに、今回、松山離島振興協会のシンボルマーク作成のお願いをいたしましたところ、早速、素敵でデザイン案を数点ご提案いただくことができ、懸案であったスタッフジャンパーやのぼりのデザインとして活用させていただき運びとなりました。今後、このデザインが、揃いのジャンパーや、立ち並ぶのぼりとなって、松山離島振興協会の活動を大々的にアピールします。



海に浮かぶ島の造形を
松山の「M」で表現

『総会開催のお知らせ』 4月19日/第3回 総会を興居島で開催

松山離島振興協会の総会を平成20年4月19日（土）に開催します。開催場所は、興居島地区の泊町集会所です。会員のみなさんはもちろん、協会の活動に関心のある方は、ぜひ傍聴にお越しください。

総会では、決算報告、各部会からの事業報告、今年度実施の「坂の上の雲 フィールドミュージアム活動支援事業」の活動状況報告などに加え、来年度事業計画の協議などを行います。なお、現在、協会の会員数は、賛助会員を含めて約130人で、会長、副会長、事務局長、顧問、監事を含む38人の理事で運営されていますが、活動が3年目を迎えるにあたり、組織再編を含む人事案件の審議なども行い、さらなる活動の活性化をめざす年にしたいと考えています。



【地域産業部】

『島めぐりクルージング』での特産品販売に加え、毎月の「道後湯あがり朝市」のほか、「第2回 まつやま農林水産まつり」「生涯学習フェスタ 2008」「三津の朝市 拡大版」と、立て続けに出展を行い、島の特産品を大々的にPRしています。

来年は、坂の上の雲のドラマが放映される年。多くの観光客に喜ばれるよう、さらに島の特産品を発掘し、磨き、売り出し、今後もあらゆる場面で島のファン層拡大に努めてまいります。

《お問い合わせ・お申し込み》

部長 島原和暁

TEL961-3293



【観光振興部】

平成18年度から始まった「坂の上の雲フィールドミュージアム活動支援事業」の『島めぐりクルージング』も、早いもので9島中の8島をめぐるしました。初年度が安居島・睦月島・野忽那島、そして今年度は怒和島・二神島・津和地島・釣島、興居島をご案内しました。それぞれの島で、観光資源となりうる地域資源を見つけ、それらを支える人的資源と出会う道りでした。残るは中島。締めくくりとなる大物は、資源の宝庫。どんな出会いがあるのか、今から楽しみです。

《お問い合わせ・お申し込み》

副部長 中矢章敬

TEL951-0128



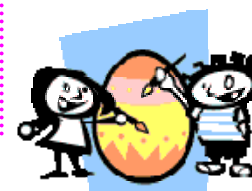
【生活環境部】【教育振興部】

生活環境部と教育振興部は、次年度からの組織再編により、統合し活動を開始する予定です。引き続き、島民の生活環境の整備に努めるとともに、次代を担う子どもたちのことを最優先に考えてまいります。

《お問い合わせ・お申し込み》

事務局長 俊成雅直

TEL997-2189



【事務局から】

来る4月19日の松山離島振興協会の第3回総会は、組織再編並びにそれに伴う人事案件の審議を行うなど、3年目の活動に臨む松山離島振興協会の機構改革のスタートラインの日であります。これまでの2年間の活動や実績等を踏まえ、新たな歩みを見せる協会の今後の活動展開に、ぜひ、積極的なご参画をいただきますとともに、島内外へ向け、広報いただきますようお願いいたします。

ホームページへのご意見をお寄せください!

<http://iland-matsuyama.infoseek.ne.jp>



☆ 松山離島振興協会は、会員のみなさんの会費によって運営されています☆

☆ あなたも会員になって、いっしょに活動しませんか☆